

【街道歩き】「旧水戸街道」①

(千住宿 → 松戸宿)

2016.01.26 (火) (整理 No 28 - 71)

水戸街道

五街道に準ずる脇街道の水戸街道は千住宿を起点としているが、1930年に荒川放水路が完成して、小菅までの旧道跡は消失してしまったため荒川を渡った東京拘置所の南側からスタートします。
はじめ水戸黄門が妖怪を退治した水戸橋を渡って亀有方面へ向かいます。亀有一里塚では、徳川光圀(水戸黄門)の影響を感じます。庶民のための藩政を行った光圀は、庶民から絶大な信頼を受けていました。それが、一里塚の隣にあるモニュメントに現れています。
そのまましばらく国道467号線を進むと、中川に架かる中川橋を渡り、千住宿から1番目の宿、新宿(古くはあらしゆく、現在にはいじゅくと読む)に入ります。

新宿から松戸宿へ

江戸側から上宿・中宿、日枝神社付近で屈曲して東に向う筋が下宿と、大きく三つに分かれている。新宿は小規模で本陣が設けられなかった。
一つ目の宿場町新宿を出てすぐ石碑・石仏群があります。右の道を進むと金町2丁目交差点先で国道6号線に合流します。そのまま江戸川を渡らず、北北東に伸びる国道307号線を進み、常磐線を越え右の道へ進む入り口に水戸街道道標があります。しばらく道なりに行くと、葛西神社と光増寺があります。川沿いの道を進み、葛飾橋西詰交差点を少し進むと金町関所跡碑があります。江戸時代、幕府防衛のために江戸川に橋は存在せず、対岸に渡るには渡し舟を利用していた。明治に入ってから葛飾橋が架けられた。ここを過ぎると次の宿場松戸宿に入ります。



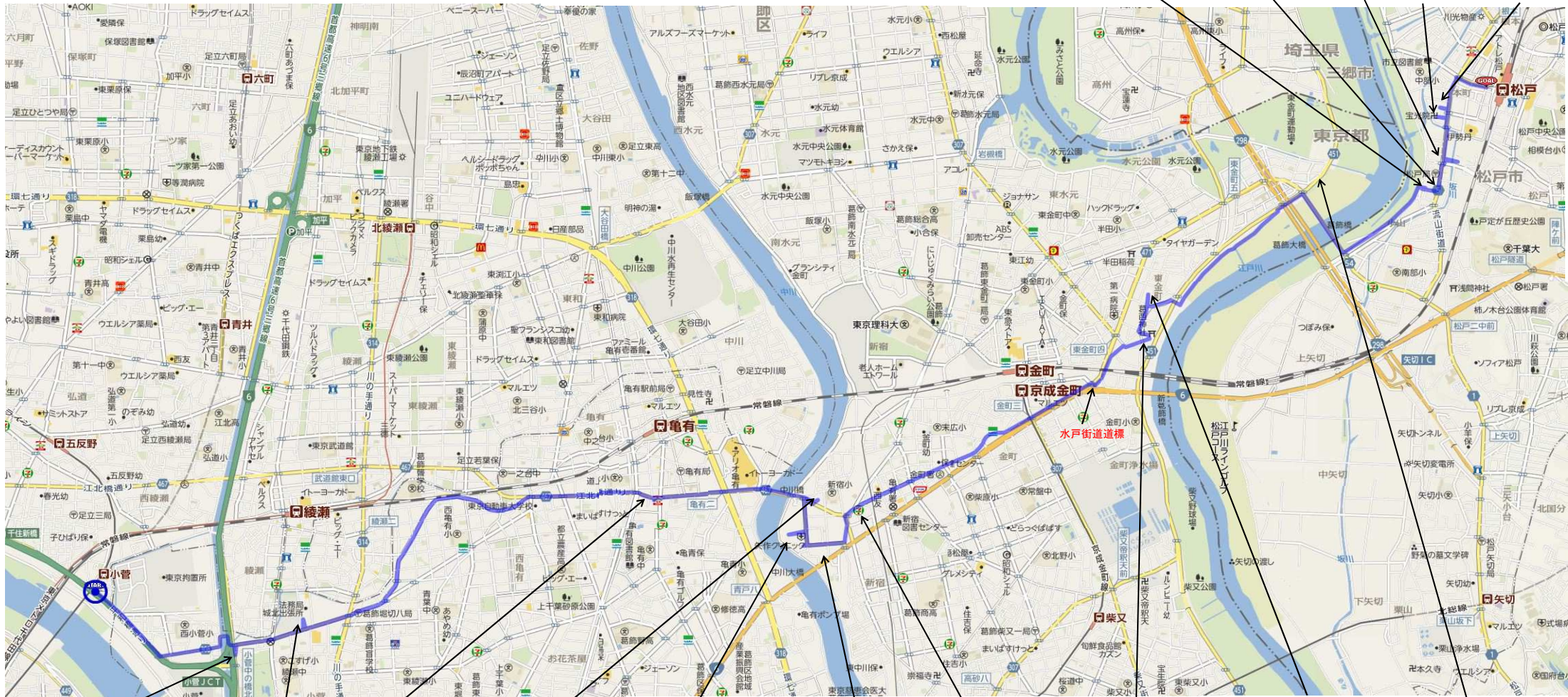
松戸宿の玄関口。通行人に、この先が松戸宿と知らしめるため、「御料俵示杭」が立てられていた。

毎年8月10日は観音様の縁日「四万六千日川」にあたり、松龍寺の参道は多くの人で賑わう。

1626年(寛永3)創建。
松戸市の総鎮守。

善照寺の間にかつて浅川又七郎の道場があり、若き日の千葉周作もここで腕を磨いた。して知られている。

善照寺には布袋像が鎮座し、松戸七福神巡りの布き日の千葉周作も袋尊を祀る札所として知られている。



1869年(明治2)に小菅県が設置された際、庁内に勧請された。その後小菅村の鎮守であった田中稲荷神社の境内に移され合祀、小菅神社となった。

日蓮宗寺院の蓮昌寺は、法光山と号します。1300年(正安2年)松本阿闍梨日念が道昌寺として創建したと伝えられます。

江戸日本橋から3里に位置する。一里塚は現在地から東へ10mほど先にあり、明治の未開までは塚の跡が残っていた。

本堂は1855年(安政2)の大地震で倒壊し、明治3年に改築。境内にはイチヨウの古木がそびえている。

浄土宗の覺林山宝樹院西念寺は、江戸時には門末カキ寺を擁する本寺だった。境内には稲荷社・愛宕社・金毘羅社がある。

旧新宿町の鎮守。起立当初はやや西方にあったが、享保14(1729)年の中川改修のとき、現在地に遷座した。

道幅拡張工事に伴い一カ所に集められた石像や記念碑「地藏菩薩石仏等十三体並びに八大竜神石碑などがある。

1185年(元暦2)葛西三郎清重の篤信により上、下葛西合わせて三十三郷の総鎮守として下総国香取神宮の分霊をお祀りしたことにはじまる。

創建は1222年(貞応元年)で、法海が草庵を結んだのがはじまりと伝えられている。親鸞聖人ゆかりの寺宝や葛飾区指定文化財を安置。

金町金戸関所と称され、水戸街道が江戸川を渡る地点に置かれた江戸の東の関所。4名の関所番が明治2年まで任にあたった。